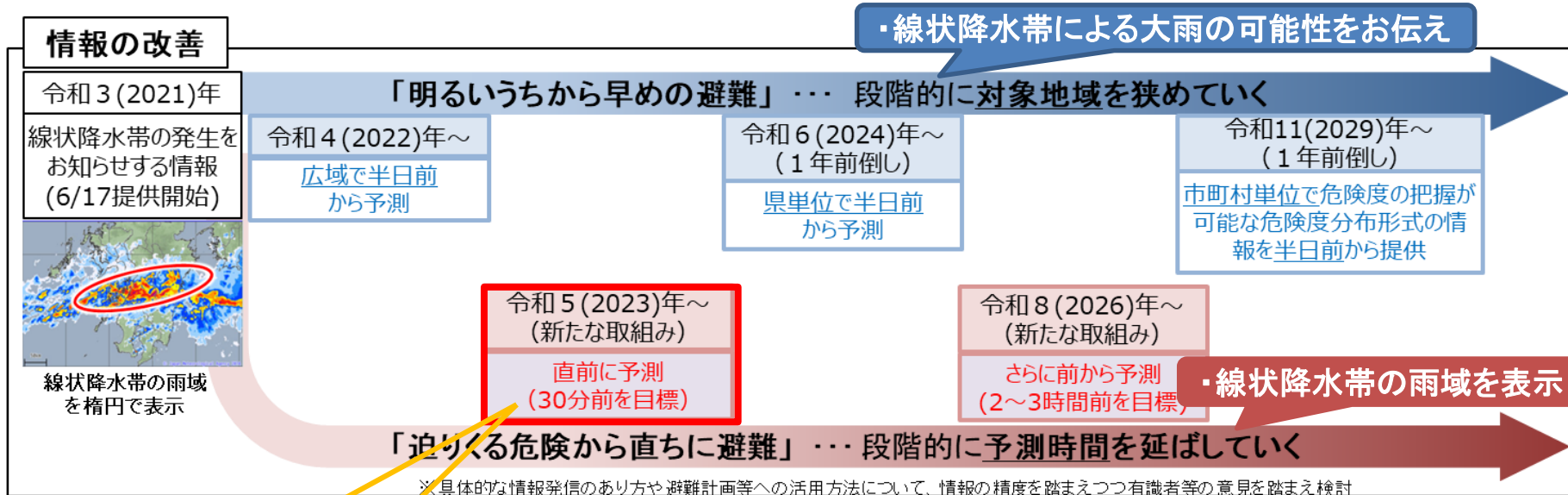


令和5年度から開始する 顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用について

令和5年4月12日

顕著な大雨に関する気象情報を、より早く、提供します

令和5年
5月25日～



現在は、線状降水帯の発生をもって「顕著な大雨に関する気象情報」を発表しているところ、雨量予測も用いて線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

- 楕円データ（予測及び実況）：データ配信（事業者等向け）
- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を実況で超過した地域（線状降水帯が発生した地域）：気象庁HPの解説ページに自動掲載

顕著な大雨に関する気象情報の新運用における発表基準

情報の発表条件

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表条件を踏襲し、現在の、実況で到達したら発表する運用を、予測の段階で到達することが分かったら早めに発表する運用に変更する。
- 雨量予測には速報版降水短時間予報を用い、令和5年度の改善においては、早いときで現在より30分程度早く、全自動で情報を発表する。

現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を**実況**で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を**実況**で超過



新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上**となる予測**
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）**となる予測**
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上**となる予測**
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を**予測**で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を**予測**で超過

30分先までの予測で条件を満たさず、実況で満たした場合も発表

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に発表

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に発表

顕著な大雨に関する気象情報の新運用における検証結果

➤ 線状降水帯の有無の検証（一次細分区域単位）

令和元年7月～令和4年10月の事例で評価
(令和3年6月17日以前は運用開始前の評価)

顕著な大雨に関する気象情報の 発表基準		予測	
		あり	なし
実況	あり	104※	18
	なし	67	-

※ 30分先までの予測に基づいて「顕著な大雨に関する気象情報」を発表し、
情報発表から60分以内に同情報の発表基準を実況で満たした場合は「実況あり」、それ以降は基準を実況で満たしても「実況なし」で扱う。

適中率：約61% 6割強の事例で現在より早く情報発表可

空振り率：約39% 4割弱の事例で実況で基準満たさず

空振り（67事例）のうち、前3時間降水量 $\geq 130\text{mm}$ は63事例あり、
実況で基準を満たさなくとも、情報が発表されたときは、大雨となる可能性が非常に高い。
一方、予測で発表することに伴い、情報の発表頻度が増す。

事前の予測における見逃し率：約15%

予測の段階で発表できず、実況で基準を満たしたことで発表する事例。
(実況で基準を満たせば従前と同様、情報を発表するので、発表の“見逃し”はない。)